



KYOTO NATIONAL MUSEUM

2023 October to December, vol. 220



特別展

東福寺

予古 特集展示

弥生時代青銅の祀り

予古 新春特集展示

辰づくし

―千支を愛でる―

予古 修理完成記念 特集展示

泉穴師神社の神像

京都国立博物館

だより

二〇二三年

二〇二二年二月号

東福寺

【特別展】
10月7日(土)～12月3日(日)
前期展示：10月7日(土)～11月5日(日)
後期展示：11月7日(火)～12月3日(日)
※会期中、一部の作品は石記以外にも展示を行います。

【平成知新館】

東福寺は、京都を代表する禅宗寺院の一つです。鎌倉時代に創建され、奈良の東大寺、興福寺のような大寺院となるよう、その一字ずつをとって命名されました。現在は全国有数の紅葉の名所として有名ですが、伽藍の壮大さでも古来名高く、都の人々に「東福寺の伽藍面」ともてはやされ、親しまれてきました。境内には中世の巨大建築が今も多くそびえ、そのスケール感にふさわしい破格の規模の美術工芸品が数多く伝わっています。また南北朝から室町時代にかけて、寺は後に「画聖」として尊ばれる禅僧にして絵仏師、吉山明兆、(一三五二～一四三二)を輩出し、目を奪う見事な仏画が大伽藍を飾りました。

本展は、我が国随一の禅宗文化の殿堂というべき東福寺の全貌をご紹介します。初めての大展覧会で、会場には巨大な彫刻や調度品、長く秘められてきた書画の優品などが一堂に会します。特に明兆による巨大連作「五百羅漢図」は修理後初公開で、必見です。美しい東福寺の秋とあわせて本展をご覧いただき、この名刹の全てをお楽しみください。

(森 道彦)

第一章 東福寺の創建と円爾

嘉禎元年(一二三三)、のちに東福寺の開山となる円爾(聖一、国師、一一二〇～一一八〇)は海を渡り、南宋禅宗界の重鎮である無準師範(一一七二～一二四九)に師事します。帰国後は博多に承天寺を建立。その後、朝廷の最高実力者である九条道家の知遇を得て京都に東福寺を開きました。以来、寺は災厄に耐えて古文書や書、典籍、肖像画など、無準や円爾ゆかりの膨大な宝物を守り継いできました。それらは十三世紀の東アジアの禅宗や日中交流の実情を窺わせる質量ともに類をみない品々で、今日、東福寺を中世禅宗文化の殿堂たらしめています。

国宝 無準師範像 自賛 京都・東福寺 (10月7日、11月5日展示)



重要文化財 遺儀 円爾筆 京都・東福寺 (11月7日～12月3日展示)



重要文化財 円爾像 自賛 京都・万寿寺 (11月7日～12月3日展示)

第二章 聖一派の形成と展開

円爾の法を伝える後継者たちを、聖一派と呼びます。円爾は禅のみならず密教にも精通し、初期の聖一派の僧たちも密教をよく学んでいました。また彼らはしばしば中国に渡り、大陸の膨大な知識や文物を持ち帰りました。東福寺周辺には彼らの面影を伝える書、肖像画や彫刻、袈裟などの所用品が多数残り、いずれも禅宗美術の優品ぞろいです。聖一派は国際性豊かで、名僧を輩出し、禅宗界で非常に重要な地位を占めました。



虎 一大字 虎関師録筆 京都・聖源院 (通期展示)



重要文化財 龍元大慧像 自賛 京都・願成寺 (10月7日～11月5日展示)

第四章 禅宗文化と海外交流

中国で禅を学んだ円爾は、帰国に際して数多くの文物を持ち帰りました。円爾と彼の地の仏教界との交流は帰国後も続き、さらにそのネットワークは円爾の法を嗣ぐ聖一派の禅僧たちにも受け継がれていきました。彼らは外交や貿易においても重要な役割を果たし、中世を通じて東福寺にもたらされた大陸の文化や知識、国際色豊かな美術工芸品の数々は日本の文化史に非常に大きな影響を与えています。



国宝 太平御覧 第一冊 京都・東福寺 (通期展示<第一冊は10月7日～11月5日展示>)



十六羅漢図 京都・永明院 (11月7日～12月3日展示)

第五章 巨大伽藍と仏教彫刻

「東福寺の伽藍面」を象徴するのはまず巨大建築、そして寺の内部を彩る壮麗な調度品や彫刻の数々です。創建以来、東福寺には仏殿本尊の釈迦如来坐像をはじめとする巨像がいくつも安置され、「新大仏寺」とも称されました。伽藍の中核をなした中世の仏殿や法堂、方丈などは残念ながら明治時代に火災で焼失しましたが、寺内には今なお目を引く彫刻などの優品が数多く残っています。



仏手 東福寺旧本尊 京都・東福寺 (通期展示)

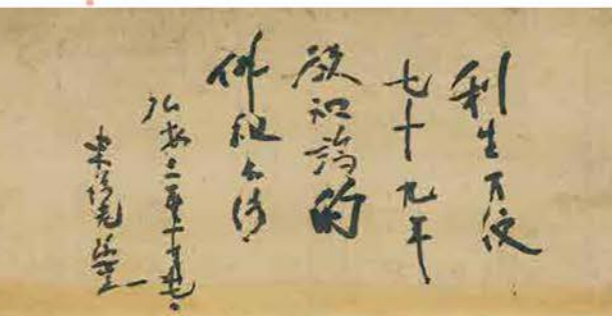


重要文化財 迦葉・阿難立像 京都・東福寺 (通期展示)

四天王立像のうち多聞天立像 京都・東福寺 (通期展示)



重要文化財 東福寺伽藍図 了庵桂悟賛 京都・東福寺 (11月7日～12月3日展示)



重要文化財 遺儀 円爾筆 京都・東福寺 (11月7日～12月3日展示)

絵仏師・明兆



重要文化財 五百羅漢図のうち第1号幅 吉山明兆筆 京都・東福寺 (10月7日～10月22日展示)

重要文化財 五百羅漢図のうち第40号幅 吉山明兆筆 京都・東福寺 (11月21日～12月3日展示)



重要文化財 達磨・蝦蟇鉄拐図 吉山明兆筆 京都・東福寺 (11月7日～12月3日展示)



重要文化財 達磨・蝦蟇鉄拐図 吉山明兆筆 京都・東福寺 (11月7日～12月3日展示)

大本山 東福寺

鎌倉時代に円爾によって開かれた東福寺は、南北朝時代には京都五山の第四に列した巨刹で、本山東福寺と各塔頭には大陸からの伝来品をはじめ、建造物や彫刻、絵画、書跡など多くの特色ある文化財が伝えられています。国指定を受けている文化財の数は本山と塔頭合わせて国宝七件、重要文化財九十八件、合計一〇五件におよびます。



本堂



三門

通天橋

《予告》「特集展示」

弥生時代青銅の祀り

令和6年1月2日(火)～2月4日(日)

〔平成知新館1F-2〕

「弥生時代と言えば青銅器」とサビた深緑色の不思議な形の銅鐸や銅矛などを思い起こす方も多いかと思えます。弥生時代の青銅器は、主に銅剣・銅矛・銅戈などの武器形青銅器と銅鐸があり、前期終わり頃から後期まで祭祀に使用された道具と考えられています。青銅器は欧州の考古学では、十九世紀から時代区分の指標とされ、石器時代と鉄器時代の中間期を代表する器物として青銅器時代という言葉も生まれました。

ところが、日本列島の青銅器は弥生時代前期末頃に朝鮮半島から鉄器とほぼ同時に伝わり、実用の鉄器に対して非実用的な祭器として発達しました。また、武器形青銅器と銅鐸は、九州・近畿地方を中心にそれぞれ異なる分布圏を示し、地方色を備えた多様な展開をみせることも注目されてきました。

一方、当初舶載された青銅器は小型や細形でしたが、やがて国産化とともに大型化することが特徴です。とくに鳴り物のベルであった銅鐸は、後期には一メートルを超える大型品も現れ、内側から打ち鳴らすための舌(ご)を失って「聞く銅鐸」から「見る銅鐸」へと性格が変化したと考えられています。同様に、武器形青銅器も刃部が形骸化した大型品で占められるようになります。

さらに重要な点は顕著な地方色があるにもかかわらず、これらの埋納状態が類似していることです。これはある程度共通した世界観の下に青銅器の祀りが行われていたことを窺わせています。



重要美術品 流水文銅鐸
京都府与謝野町明石出土 京都国立博物館

このように弥生時代の青銅器は大陸に起源をもちながら独自の進化を遂げ、祀りの重要な道具として発達したと考えられます。本展示では、日本列島独自の青銅器文化の展開と多様性を紹介します。

(古谷 毅)



銅剣 大分市浜出土 京都国立博物館



重要文化財 銅戈 福岡県春日市小倉出土 京都国立博物館

《予告》「修理完成記念 特集展示」

泉穴師神社の神像

令和6年1月2日(火)～2月25日(日)

〔平成知新館1F-1〕

日本古来の神祇信仰では、神の依り代は木や磐、あるいは鏡などであり、その姿かたちが制作されることはありませんでした。仏教の伝来によって仏像の制作が始まり、奈良時代に入って神仏習合が進むと、神像を造って祀るようになります。仏像に比べて神像は公開されることが少ないため、制作背景や伝来がわからないことが多いのですが、人目に触れてこなかった分、造られた当時の姿や彩色をそのまま留めていることが多いと言えます。

大阪府泉大津市にある泉穴師神社は「延喜式」にその名がみえる由緒ある神社です。同社には八十三軀の神像が伝えられ、うち平安時代から鎌倉時代に制作された八十軀が重要文化財に指定されています。神像群は経年により塵や埃が付着し、表面彩色の剥落、虫蝕・鼠害などによる損傷が進んでいたため、令和元年から四年をかけて八十軀の修理が行われました。修理は国と市の補助金に加え、公益財団法人住友財団の助成金を受けて、当館文化財保存修理所で公益財団法人美術院により実施されました。

今回、修理完成記念として神像約二十軀を展示します。主祭神の男女二神は神像群のなかで最も大きな像で、截金や彩色を施す文様が見どころです。他にもまるで仏像を思わせるような姿や、肉身に金箔を施す像など、バリエーションが様々です。修理でよみがえった顔立ちや文様の美しさをご覧いただくのももちろんのこと、文化財修理の技術の素晴らしさを感じただけだと思います。

(竹下 蘭子)



重要文化財 男女神像 (天忍穂耳命坐像・栲幡千千姫命坐像)
大阪・泉穴師神社

《予告》【新春特集展示】

辰づくし

―千支を愛でる―

令和6年1月22日(火)

2月12日(月・休)

〔平成知新館 2F-2-4〕



重要文化財 龍虎図屏風(右隻) 狩野山楽筆 京都・妙心寺

令和6年の「千支を愛でる」もファミリー向け!

作品を見るのが楽しくなるワークシート(小学校低学年) やさしい解説文(小学校高学年)



龍袍 金黃地綴織 (西田善蔵コレクション) 京都国立博物館



双龍 文半瓦当 京都国立博物館

来年の千支は辰(龍)ですね。十二種類の千支の生き物の中で、龍だけは想像上の生き物です。でも昔の多くの人は、その存在を信じて、瑞獣(特別な時に現れるめでたい生き物)だと考えてきました。中国の百科事典をもとに、江戸時代に日本で作られた『和漢三才図会』には、龍の体の特徴が書かれています。それによれば龍は、「頭は駱駝、角は鹿、目は鬼、耳は牛、項(首の後ろ)は鷹、掌は虎」に似ているそうです。

龍は、雨をつかさどり、鱗のある生き物たちのリーダーだと考えられました。昔の中国のある時代には、皇帝が使うものに五本爪の龍が描かれ、ほかの人は五本爪の龍の形を使つてはいけないう決まりがありました。実際に見ることができないからこそ、龍を描く人たちは想像力を働かせ、個性豊かな龍たちを生み出してきました。この展示では、日本や中国の美術の中に表わされた、いろいろな龍をご紹介します。迫力のある龍、かっこいい龍、ひょうきんな龍...あなたのお気に入りを探しに、ぜひ博物館に遊びに来てください。

(水谷亜希)



昇龍 墨意 須磨弥吉郎氏 須磨未干氏 高奇峰筆 須磨未干氏 京都国立博物館

「ミュージアムパートナー一覧」 ※令和5年9月末現在 京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広く支援いただいています。

- 「ゴールド」土屋和之 株式会社 〇のPMZホールディングス 株式会社 俄 / MSEA株式会社 「シルバー」学校法人 二本松学院 東レエンジニアリング株式会社 「ブロンズ」原田清朗

「キャンパスメンバーズ」 ※令和5年9月末現在

- 「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などさまざまな特典を提供しています。

- 学校法人 瓜生山学園 / 追手門学院大学 / 国立大学法人 大阪大学 / 大阪大谷大学 / 大谷大学 / 学校法人 大手前学園 / 学校法人 関西大学 / 学校法人 関西学院 / 国立大学法人 京都大学 / 学校法人 京都外国語大学 / 国立大学法人 京都工芸繊維大学 / 学校法人 京都産業大学 / 学校法人 京都市立芸術大学 / 京都精華大学 / 京都先端科学大学 / 京都橋大学 / 京都府立大学 / 京都先端科学大学 / 京都精華大学 / 近畿大学 / 四天王寺大学 / 就実大学 / 成安造形大学 / 学校法人 大覚寺学園 / 帝塚山大学 / 学校法人 同志社 / 奈良大学 / 奈良女子大学 / 国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学 / 学校法人 二本松学院 / 花園大学 / 佛教大学 / 学校法人 立命館 / 龍谷大学

◆Instagram (@kyotonatnm) アカウント開設のお知らせ



このたび、Instagramに京博公式アカウントを開設しました。京博公式キャラクタートラバリンとともに、展示作品などを紹介します。皆様のフォローをお待ちしています。 ユーザーネーム: @kyotonatnm URL: https://instagram.com/kyotonatnm/

「親鸞聖人生誕八五〇年特別展 親鸞—生涯と名宝」を拝見して

広島大学教授 佐々木 勇

このたび、浄土真宗各派寺院所蔵の法宝物を一堂に集めた「過去最大の親鸞展」を、四月二十一日（金）に拝見することができた。僥倖である。

三階展示室は、第一章 親鸞を導くもの—七人の高僧—。二階は、第二章 親鸞の生涯。一階は、第三章 親鸞と門弟、第四章 親鸞と聖徳太子、第五章 親鸞のことは、第六章 浄土真宗の名宝—障壁画・古筆—、第七章 親鸞の伝えるもの—名号—、と題される。

第二章—第四章は、坐像と伝絵とで、聖人の生涯をたどる。第五章には、庄巻の真蹟が並ぶ。以下、「出品一覽」の番号を並記しつつ、本展覧会のために集められた大量の文献中、当日拝見したうちの数点について記したい。

第一章では、【15】国宝・観無量寿経註の迫力に圧倒される。若き日の勉学の跡に、直に接することができる。上下欄の注文と本文声点との朱筆は、同筆と見られる。これに対して、紙背の朱筆は、やや淡い。この点は、複製本では確認できない。『十住毘婆沙論』として、【21】愛知県・岩屋寺蔵の宋版一切経思溪版が展示されている。親鸞聖人が思溪版を閲覧したことは確実で、漢字字体にも影響を受けている。

第二章の【38】善信聖人親鸞伝絵（高田本）は、学生と共に原本閲覧し、翻刻・索引を作成した想い出の伝絵である。【58】藤原範綱消息は、補修前のカラーパネルとともに、初公開の原本が展示されている。【63】選択本願念仏集延書・【64】拾遺古徳伝絵も、大学院の演習で参考資料とした文献である。【69】法然聖人絵（弘願本）巻第三の巻頭文には、十四世紀における日本漢文の読みを知ることができる、詳しい訓点が加添されて

いる。

親鸞聖人とそれに繋がる人々の遺文には、同時代の類似文献には見られない特徴が有る。それは、漢字に仮名等の訓点を加点し、通常は仮名書きしない漢語を仮名で書く点である。これは、仮名を読むことができれば、法語を理解できるようにするための心配りである。聖人の目は常に庶民を見ており、聖人門下にもこの視点が引き継がれた。この、庶民への配慮は、第三章の【99】一流相承系図や【102】親鸞聖人惣御門弟等交名にまで及ぶ。系図の僧名や門弟名への仮名によって、現代の我々も、当時の僧名を正確に読むことができる。

第四章では、【117】上宮太子御記（西本願寺）と【118】善信聖人親鸞伝絵（佛光寺）とに目を奪われた。第五章には、『教行信証』【122】国宝・坂東本・【123】高田本・【124】西本願寺本が、初めて一堂に会し、第六章では、【163】安養六種図・【165】桜牡丹図が威光を放つ中、【167】三十六人家集・【168】類聚古集・【169】熊野懐紙の国宝古筆が並ぶ。

最後の第七章は、いずれの展示期間も、名号と親鸞聖人影像の二点のみが、照明を落とした室に置かれる。生涯を通じて、聖人が名号と向かい合ったことを象徴的に示し、展示を閉じる。ここで観覧者は、聖人と共に仏と、また聖人と仏とに対峙することができる。

この親鸞展は、なぜか懐かしさを覚える、異空間であった。展覧会図録は、今後の研究論文に引用されることであろう。皆様も、非日常空間を作り続ける京都国立博物館に、是非ともお運び下さい。



講座・イベント

《特別展「東福寺」記念講演会》

10月14日(土)「中国禅の本流としての東福寺—その歴史と文化財—」

東福寺資料研究所長・京都産業大学教授 石川登志雄 氏

10月21日(土)「[五山] 東福寺と室町將軍の額字」

東福寺資料研究所主任学芸員 日種真子 氏

10月28日(土)「東福寺画壇と明兆」

京都国立博物館研究員 森 道彦

11月 4日(土)「京都・東福寺と杭州径山の交流」

国際日本文化研究センター教授 榎本 涉 氏

11月11日(土)「東福寺と禅宗の仏像」

追手門学院大学教授 浅湫 毅 氏

11月18日(土)「墨跡にみる円爾と聖一派」

東国国立博物館研究員 六人部克典 氏

11月25日(土)「東福寺と伝法衣—袈裟をめぐる物語—」

京都国立博物館上席研究員・企画室長兼工芸室長 山川 暁

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料(講演会当日の特別展観覧券が必要)。

※当日9時より、平成知新館1階インフォメーションにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。

《特別展「東福寺」開催記念 東福寺末生流 秋の華道体験》

日 時：11月4日(土)・5日(日)

9時45分～、12時～、13時45分～、15時30分～ ※各回約90分

会 場：茶室「堪庵」(京都国立博物館 東の庭園)

定 員：各日各回5名

講 師：東福寺末生流

参加費：500円(ただし、当日の特別展観覧券が別途必要)

参加方法：10月2日(月)10時より、ウェブサイトよりお申し込みください。

※先着順、定員になり次第受付を終了します。

https://www.kyohaku.go.jp/jp/events/event/20231104_flower/

《特別展「東福寺」キャンパスメンバーズ講演会》

日 時：11月16日(木) 15～16時

会 場：平成知新館 講堂

講 師：森 道彦(京都国立博物館研究員)

参加方法：11月13日(月)までにウェブサイトよりお申し込みください。

https://www.kyohaku.go.jp/jp/events/event/20231116_campus-lec/

これからの展覧会

◆特集展示 弥生時代青銅の祀り

令和6年(2024)1月2日(火)～2月4日(日)

◆新春特集展示 辰づくし—干支を愛でる—

令和6年(2024)1月2日(火)～2月12日(月・休)

◆修理完成記念 特集展示 泉穴師神社の神像

令和6年(2024)1月2日(火)～2月25日(日)

◆特集展示 雛まつりと人形—古今雛の東西—

令和6年(2024)2月10日(土)～3月24日(日)

展覧会やイベントの中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいませよう願いたします。

◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展とその前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー休止期間：9月20日(水)～10月5日(木)

12月5日(火)～12月24日(日)

※上記期間中は庭園のみ開館となります。

ご利用案内

【開館時間】<9月20日～10月5日> 9:30～17:00

<10月7日～12月3日> 9:00～17:30

<12月5日～12月24日> 9:30～17:00

*入館は開館の30分前まで

【観覧料】【特別展「東福寺」】<10月7日～12月3日>

一般1800円(1600円)、大学生1200円(1000円)、高校生700円(500円)

* ()内は団体20名以上。中学生以下、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

* キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より500円引きとなります(当日南門チケット売場のみの販売)。

【庭園のみ開館期間】<9月20日～10月5日>

<12月5日～12月24日>

一般300円、大学生150円

* 高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

* キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

* 有料(一般のみ)にてご入館の方は、庭園ガイド冊子がつきます。

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)、10月6日(金)、12月25日(月)～令和6年1月1日(月・祝)

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂下車すぐ

プリンスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車=近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

公式サイト

<https://www.kyohaku.go.jp/>

X (旧 Twitter)・Instagram

@KyotoNatMuseum

公式キャラクター・トラリンサイト

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/>

発行日 令和5年10月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

